# 知事より職員の皆さんへ

＜平成18年度の県政運営にあたって＞

平成18年4月1日

知事 碓氷昭彦

平成１８年度を迎え、職員の皆さんへ、県政運営にあたっての私の思いをお伝えします。

「県民しあわせプラン」が３年目を迎える本年度は、その「戦略計画」の最終年度であるとともに、次のステップへの準備の年でもあります。仕上げの年として、計画の目標達成に全力で取り組むことはもちろん、新しいステップに向けた次期戦略計画策定の取組を着実に進めていく必要があります。

次期戦略計画では、「新しい時代の公」と「文化力」を２本柱として考えていますので、職員の皆さんには、この２つの考え方を確実に理解し、その推進に全力で取り組んでいただきたいと思います。

また、県政を支えるのは、職員の皆さんの元気です。県政に携わる皆さんの元気が「しあわせ創造県」づくりの源泉となります。

今、私たちが取り組む経営品質向上活動は、「顧客満足」とともに「職員満足」をたいへん重視しています。職場に会話、対話を奨励し、職員を元気にする取組を大切にしながら、組織として県政の目標を達成していくことが基本的なスタンスです。

新たなステップに向け、新しい組織体制もスタートしました。

職員の皆さん、経営品質の考え方のもと、志を高く持って、本庁、地域機関一体となり、県民サービスの質の向上に邁進していこうではありませんか。

## 1　職員一人ひとりの**行動基軸**の共有

経営品質の一層の向上に向け、以下の３項目を、職員の皆さんが日常業務に取り組む上での行動の基軸としてください。昨年度当初に示したものから、趣旨は変えず、内容をよりコンパクトにまとめました。復唱し、自分のものとして、日々の実践に努めてください。

① **信頼される公務員**をモットーにします。

「**公平・公正・透明**」を基本に、**誰のため、何のための県政か**を常に**素直**に考え、**感性**を高め、県民の皆様の要望や意見に、**真摯**に対応します。

② **対話**を促進します。

**笑顔の対話**を職場の風土とし、**チームワーク**を高めます。一人ひとりの**気づきと納得**に基づき、**率先実行取組**を着実に実行します。

③ **工夫**して**不断の改善**に努めます。

**常に求めて学び**、互いに**切磋琢磨**します。これまでやってきたことに**批判眼**をもって取り組み、日常業務において不断の努力を積み重ね、改善していきます。

※　**特に、幹部職員**は、常に**使命**を自任し、職員の先頭に立って**情熱**と**勇気・気概**を示すと共に、所管する組織の**行政能力を最高に発揮**できるよう**リーダーシップ**を果たします。

※　また、この行動基軸のさらなる定着に向け、全職員が**あいさつ、整理整頓**を励行し、明るい職場づくりに努めます。幹部職員はそれを率先垂範します。

## 2　「県民しあわせプラン」の更なる推進に向けて

本年度は、「県民しあわせプラン」の「戦略計画」の最終年度であるとともに、次期戦略計画の策定に取り組む年度に当たります。そこで、改めて、「県民しあわせプラン」の考え方の原点に立ち返って考えて欲しいと思います。

**（地域主権の社会）**

「県民しあわせプラン」では、**「みえけん愛を育む“しあわせ創造県”」**を**県民が主役**となって築くことを基本理念としています。そして、地域に住む人々や多様な主体が主役となり、その個性や特徴に応じた役割を担いながら、個性的で魅力的な地域づくりを進めていくという**「地域主権の社会」**を目指しています。

地域主権の社会は、地域のあり方を行政に任せるのでなく、自分たちの地域のことは、自分たちが責任を持って決めていく社会であり、そこでは、一人ひとりがしっかりとした**「個」を確立**し、自ら考え、主体的に行動することが基本になります。また、同時に、社会から孤立するのではなく、一人ひとりが積極的に社会に参画し、多様な主体が**ともに地域を支え合う**ことが求められます。

**（新しい時代の公）**

地域主権の社会をめざして、既に、県内各地域で、地域発の様々な自主的な取組が始まっています。

県も、このような、多様な主体が参画し、みんなで「公」を支える社会を目指して、**「新しい時代の公」**の実践に取り組んでいます。

「新しい時代の公」は、行政が主に公共サービスを提供するという「ガバメント（統治）」から、多様な主体が共に公共サービスを担う「ガバナンス（共治）」へと一歩を進める挑戦です。県の仕事の進め方を共治にふさわしいものに変えていくことが求められています。

**（文化力）**

さらに、今回、**「文化力」**をベースに、これまでの県の政策のあり方を見直し、経済と文化のバランスの取れた政策への転換を進めることとしています。

文化は、長い時間をかけて育まれてきた知恵と工夫の結晶であり、暮らしの営みの履歴ともいえるものです。普段はその大切さになかなか気づかないものですが、人や地域を元気にし、暮らしをより良くしていく力を持っています。文化力は、心豊かに生きるための一人ひとりの力（人間力）であり、また、たくさんの人の力が集まって、地域の魅力や価値を高める力（地域力）です。さらに、人間力や地域力の源泉になる、新しい知恵や仕組みを生み出す力（創造力）の側面もあります。

「文化力」を政策のベースに置き、これまでの経済的な合理性や効率性などを基準にするだけでなく、発想を転換し、多様な価値に着目し、多面的に政策を考えることが重要です。

これまでの政策が、種々の課題に対する対症療法的なものとするなら、文化力は、中長期的に社会全体の体質を改善し、健康な地域社会づくりを目指すものです。

**（職員としての心構え）**

「新しい時代の公」と「文化力」は、県民一人ひとりが主体的に地域と関わることを支援するとともに、人と人の信頼や絆を深めることを基本に、地域社会の再生、創造を目指す取組です。文化力は、政策を考えるベースであり、新しい時代の公は、仕事の進め方のベースといえます。

では、この二つの取組を進めるに当たって、職員にはどんな心構えが求められるのでしょうか。

まず、**発想を転換する**ためには、既存の価値基準や制度、前例にとらわれず、**柔軟に考える**ことが必要です。言い換えれば、一人ひとりが日頃から問題意識を持ち、**感性を磨く**ことが大切です。また、常に、**「誰のために、何のために、何を目指しているのか」**を問い続け、**県民の方と一緒に考えていく**必要があります。

感性を高め、経営品質のマインドを深めていくことが、「文化力」と「新しい時代の公」の二本柱を支える礎となります。このような心構えを一人ひとりが肝に銘じながら、経営品質向上活動により県庁文化として浸透を図るとともに、「新しい時代の公」の実践を進め、「文化力」をベースに政策を見直すことに、果敢にチャレンジしていきましょう。